

令和 4 年度

## 「運営に関する計画（最終評価）」

大阪市立大国小学校

令和 5 年 3 月

## 大阪市立大国小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

### 1 学校運営の中期目標

#### 現状と課題

「大阪市教育振興基本計画」において、「最重要目標」として、

- (1) 安全・安心な教育の推進
- (2) 未来を切り拓く学力・体力の向上
- (3) 学びを支える教育環境の充実

が掲げられている。この最重要目標に即する現状と課題は下記の通りである。

#### (1) 安全・安心な教育の推進

保護者・地域・関係諸機関と連携を図り、安全安心な教育の実現に努めている。登下校では、教員が定期的に通学路等の安全確保に努めたり、地域の方々が下校時の見守り活動をしていただいたり、PTAの方が登下校の子どもの見守り活動をしていただいたりしている。また、月に1回、校内の安全点検を行い、学校施設の安全整備に努めている。さらに、教職員全員で児童理解を行い、子ども1人ひとりに応じた支援に努めている。令和3年度末の保護者アンケート「お子さまは、楽しく学校に行っている」に対して肯定的な回答は96%、「学校は、子どもの安全確保について、積極的に取り組んでいる」に対して肯定的な回答は96%であった。今年度も90%以上を維持していきたい。また、令和3年度末の児童アンケート「学校はたのしい」に対して肯定的な回答は93%であった。

今後とも、集団育成に取り組みながら、一人ひとりの子どもに寄り添った教育活動を進めていく必要がある。また、個々の家庭との連携を深め、子どもの生活実態の正確な把握に努めていく。問題等が把握されれば、関係諸機関（こども相談センター、浪速警察署、浪速区子育て支援室、こどもサポートネット、民生委員協議会）等と連携しながら改善に努める必要がある。

#### (2) 未来を切り拓く学力・体力の向上

令和3年度の学力経年調査の結果においては、標準化得点が3年100.2、4年95.7、5年93.7、6年98.4であった。

子どもたちの中には、指導者の指示を待つなど、主体的に学習できず、受け身的な傾向がみられる。児童が「学びたい」と思えるように導入を工夫し、互いの考えを交流する対話的な学びを大切にしながら、まとめのときも「なぜ」の疑問を大切にすることにより、主体的、対話的で深い学びを推進していく必要がある。

また、社会的な事象を直接見たり、聞いたり、触れたり、また人と出会い話をしたりすることを通して、自分の生活との関連などを具体的に考えたり、行動したりすることができるよう体験的な学習活動も取り入れていく必要がある。

さらに、令和4年1月の児童アンケートで「本を読むのが好き」と答える児童は79%であった。読書することにより、読み取る力が向上すると考えるので、今後も本を読むことの面白さに気付けるような取り組みを進めるとともに、学校や家庭で読書時間を増やす啓発活動をしていく必要がある。

体力については、令和3年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果では、本校男子では、握力、上体起こし、反復横とび、立ち幅とび、ソフトボール投げで、大阪市男子平

均を上回った一方で、長座体前屈、20mシャトルラン、50m走では下回った。本校女子では、上体起こし、反復横とび、立ち幅とび、ソフトボール投げで、大阪市女子平均を上回った一方で、握力、長座体前屈、20mシャトルラン、50m走では下回った。特に、長座体前屈、20mシャトルラン、50m走では、男女ともに大阪市平均を下回った。今後はより一層、柔軟体操に取り組んだり、持久力や走力向上のための取り組みを進めたりしていく必要がある。

### (3)学びを支える教育環境の充実

本校では、令和2年度からPepperを導入し、PepperをはじめScratchやViscuitなど、児童の実態に応じたソフトを活用しながらプログラミング教育を進めている。また、一人一台学習者用端末を活用し、生活科や総合的な学習の時間において、タイピングの学習も進めている。タイピングの学習をする際は、キーに応じた指でタイピングができるように、タイピング入力表を1人に1枚用意している。さらに、一人一台学習者用端末や大型テレビを活用して、自分の考えをパソコン上でまとめたり、発表資料を作成したり、まとめた資料を友だちや学級全員で共有したり、大型テレビを活用して発表したりする取り組みを進めている。

上記のような取り組みを進められるように、一人一台学習者用端末の整備、Wi-Fi環境の整備、ケーブル関係の整備などにも取り組んでいる。

校内研修会では、外部講師を招聘して研究授業を実施したり、一人一授業を実施してすべての教員が研究授業を実施したりしている。研究授業の際には、管理職をはじめ他の教員が授業を見て、より良い授業になるように意見を交換したり、互いの授業を見合うことにより授業力向上に繋げたりできるようにしている。また、放課後や長期休み中には校内研修会を実施し、教員一人ひとりが学ぶ機会を持ち、指導力向上も図っている。さらに、指導に関する書籍を充実させ、指導に当たって教員が学びやすい環境整備にも努めている。

超過勤務時間が月45時間を超える教職員の割合は、令和3年度では約10%であった。

今後は、子どもがいろいろな手段を使って学びに向かっていくことができるよう、学びを支える教育環境の充実をより一層図っていく必要がある。また、働き方改革を進め、超過勤務が月45時間を超える教職員の割合を減少させていく必要がある。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標

- 令和4年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和4年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 令和4年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

#### 学校の年度目標

- 令和4年度の校内アンケートで「学校は楽しい」と肯定的に答える子どもの割合を80%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標

- 令和4年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、30%以上にする。
- 令和4年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 令和4年度の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和4年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対し、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を50%以上にする。

#### 学校の年度目標

- 令和4年度の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 全市共通目標

- 学習者用端末を活用した学習を週1回実施する。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。
- 「ゆとりの日」を週に2回設定・実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を80%以上にする。

#### 学校の年度目標

- 令和4年度の児童アンケートにおける「パソコンやタブレットを使った学習は楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和4年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は78.4%であり、目標を達成することができなかった。
- 令和4年度末の校内調査において、不登校児童の割合は0%であった。
- 令和4年度末の校内調査において、前年度不登校児童の割合は0%となり改善した。
- 令和4年度の校内アンケートで「学校は楽しい」と肯定的に答える子どもの割合を94%となり、前年度よりも1%増加した。
- 令和4年度の児童アンケートにおいて、「先生や友達に自分の思いや気持ちを話せている」と肯定的に回答する児童の割合は84%となり、目標を達成したものの、前年度より9%減少した。
- 令和4年度の児童アンケートにおいて、「友達の嫌がることをしたり、言ったりしないようにしている」と肯定的に回答する児童の割合は89%となり、目標を達成したものの、前年度より2%減少した。
- 令和4年度の児童アンケートにおいて、「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答する児童の割合は85%となり、前年度より5%増加した。
- 令和4年度の児童アンケートにおいて、「自分を大切にできている」と肯定的に回答する児童の割合は91%となり、前年度より1%増加した。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和4年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は、33.9%となり、目標を達成することができた。
- 令和4年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較すると、6年-0.05ポイント、5年-0.07ポイント、4年-0.32ポイントとなり、いずれの学年も前年度より向上させることができなかった。
- 令和4年度の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は75.2%となり、目標を達成することができなかった。
- 令和4年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対し、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は76.4%となり、目標を達成することができた。
- 令和4年度の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合は92%となり目標を達成することはできたが、前年度より3%減少した。
- 小学校学力経年調査において、「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていた」と肯定的に回答する児童の割合は73.6%となり、目標を達成することができた。
- 令和4年度の学校アンケートにおいて、「授業中、自分で考えて勉強したり、友だちの考えを聞いたりできる」と肯定的に回答する児童の割合は84%となり、目標を達成することができた。
- 漢字検定の合格率は65%となり、目標を達成することができたが、前年度より3%減少した。
- 令和4年度の児童アンケートにおいて、「新しい学年になって、自分の中でがんばったことがある」と肯定的に回答する児童の割合は91%となり、目標を達成することができたが、前年度

より 1% 減少した。

○令和 4 年度の児童アンケートにおいて、「英語学習がたのしい」と肯定的に回答する児童の割合は 83% となり、目標を達成することができたが、前年度より 2% 減少した。

### 【学びを支える教育環境の充実】

○学習者用端末を活用した学習を週 1 回実施することができた。

○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合は 85% となり、目標を達成することができた。

○「ゆとりの日」を週に 2 回設定・実施することができた。

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合は、89.5% となり目標を達成することができた。

○令和 4 年度の児童アンケートにおける「パソコンやタブレットを使った学習は楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、87% となり目標を達成することができた。

○令和 4 年度児童アンケートにおいて、「プログラミングは楽しい」と肯定的に回答する児童の割合は 86% となり、目標を達成することができた。

○令和 4 年度小学校学力経年調査において、「デジタルドリルを使った学習は楽しいですか」と肯定的に回答する児童の割合は 59.6% となり、目標を達成することができなかつた。

大阪市立 大国小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【安全・安心な教育の推進】</b> <b>全市共通目標</b> ○令和4年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。	78.4%
○令和4年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ○令和4年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。	B
<b>学校の年度目標</b> ○令和4年度の校内アンケートで「学校は楽しい」と肯定的に答える子どもの割合を80%以上にする。 94%(93%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
<b>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b> いじめのない安全・安心で楽しい学校生活が送れるようにする。	
<b>指標</b> ○いじめに発展する前の段階での早期発見、早期解消を図るために、児童アンケートを学期に1回実施し、実態の把握に努める。 ○いじめと認知した場合、事案のすべての解決に取り組む。人権教育会議を月1回程度実施し、情報と手立て、今後の方向性を全教職員で共有する。	B
<b>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b> 児童一人ひとりの個性を大切にし、より良い仲間づくりに取り組む。	
<b>指標</b> ○令和4年度の児童アンケートにおいて、「先生や友達に自分の思いや気持ちを話せている」と肯定的に回答する児童の割合を、75%以上にする。 ○令和4年度の児童アンケートにおいて、「友だちの嫌がることをしたり、言ったりしているなようしている」と肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。	B
<b>取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】</b> 人権教育を推進し、自尊心や自己肯定感向上に取り組む。	A
<b>指標</b> ○「褒めて、認めて、励ます」を実践しながら、児童の自尊心や自己肯定感向上に取り組む。	

○「かわ」等体験的な学習に系統的に取り組む。

○令和4年度の児童アンケートにおいて、「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。

85%(80%)

#### 取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】

性・生教育に取り組み、豊かな心や、互いのちがいを認め合える心を育む。

#### 指標

○性・生教育の年間カリキュラムを作成し、全学年で系統立てて取り組む。

B

○令和4年度の児童アンケートにおいて、「自分を大切にできている」と肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。

91%(90%)

#### 年度目標の達成状況や取組の結果と分析

①～③子どもの置かれている背景を人権教育会議等で共有し、それをもとに学校全体で「ほめて、認めて、励ます」ことを実践し、児童に寄り添った指導を行った。そうすることで、長年課題であった「自己肯定感」の向上につながり、効果が出てきている。継続的な指導をしていくことで、更なる効果が期待できる。

②アンケートを上回っているが、実際、友だちへの嫌がらせ等での指導をしている。

④カリキュラムを作成して実行しているが、性・生教育を公開授業にしている学年と、そうでない学年とで差がある。

#### 改善点

①～③子どもの行動の結果だけに目を向けてしまうことやタイミングなどによって、子どもが本当に欲している支援になっていない場合もある。そうなった理由や背景、子どもの状態にさらに目を向けていかなければならない。速やかに指導すると同時に、子どもに寄り添い友だちの気持ちを考える機会を増やすなど、集団育成を今後も続けていく必要がある。また、子どもを指導するという視点から支援する・支えるという視点に少しづつ方向転換必要もある。

④学年の差が出ないようにするには、研究科目の観点になるが、性・生教育を研究とするのか、教科・領域を研究とするのか、決めたほうが良い。また、学年によっては性・生教育を実施する時期を迷う内容もある。各学年で実施する時期を明確化し、学級で取り組みやすくする方が良い。研究の教科・領域としない場合は、啓発の劇や読み聞かせなどを委員会が担う方法もある。

大阪市立 大国小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b>	
<b>全市共通目標</b>	
○令和4年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、30%以上にする。	
○令和4年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。	B
○令和4年度の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 75.2%	
○令和4年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対し、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を50%以上にする。	
<b>学校の年度目標</b>	
○令和4年度の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 92%(95%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
<b>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</b> 主体的、対話的で深い学びの授業に取り組む。	
<b>指標</b>	
○小学校学力経年調査において、「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていた」と肯定的に回答する児童の割合を、65%以上にする。 73.6%	B
○令和4年度の児童アンケートにおいて、「授業中、自分で考えて勉強したり、友だちの考えを聞いたりできている」と肯定的に回答する児童の割合を、75%以上にする。 84%(83%)	
○芸術鑑賞会と作品展を年に1回ずつ実施する。	
<b>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</b> 「できた」という経験を積み重ね、自己肯定感を高める。	
<b>指標</b>	
○漢字検定の合格率を60%以上にする。 65%(68%)	B
○100マス計算でのタイムを学校全体で評価し、児童への価値づけを行う。	

<p>○令和4年度の児童アンケートにおいて、「新しい学年になって、自分の中でもがんばったことがある」と肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>○一人ひとりの学力を把握し、個に応じた指導を行う。</p>	<p>91%(93%)</p>	
<b>取組内容③【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</b>		
子どもたちが楽しく英語を学び、コミュニケーションしようとする力を育む。		B
<b>指標</b>		
○全学年で週2回15分の英語モジュール学習に取り組む。		
○令和4年度の児童アンケートにおいて、「英語学習がたのしい」と肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。	83%(85%)	
<b>取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</b>		
健康や体力に対する意識を向上させ、じょうぶな体を育てる。		B
<b>指標</b>		
○健康や姿勢について、日常的な指導や学期に1回保健指導を行う。		
○なわとび等の持久力を高める取り組みに、学校全体で取り組む。		
<b>年度目標の達成状況や取組の結果と分析</b>		
<p>①児童一人ひとりは一生懸命に取り組んでいる。教職員も学力向上の取り組みを計画的に行っている。しかし、学力向上につながっている実感が少なく、更なる意欲喚起につながっていない。</p> <p>③年間計画を参考にし、学年の実態に合わせた教材を選び柔軟に取り組んでいる。また、英語学習を生かし、編入児童との関わりや普段の生活に生かす姿が見られるようになった。</p> <p>④冬季体力づくりを通して、多くの児童が体力づくりに努めることができた。また、目標設定カードの活用により、自分の目標を明確にして体力向上につなげることができた。</p>		
<b>改善点</b>		
<p>②朝学習「グッとタイム」で児童の集中力が向上するなど、一定の効果が見られた。しかし、100マス計算については、児童が更に達成感を味わうことができる方法を考える。</p> <p>③児童の実態に合わせた指導（現状）をする。または、DREAMを基にしたカリキュラム通りの指導を進めるといった、基本の方向性を決める必要性がある。</p> <p>④姿勢や運動機能に課題があると考えられる。そのため、児童が、運動することの楽しさや喜びを味わい活動できるような指導をすることに努める。</p>		

大阪市立 大国小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【学びを支える教育環境の充実】</b> <b>全市共通目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習者用端末を取り入れた活動を週1回以上実施する。</li> <li>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">80%以上</span></li> <li>○「ゆとりの日」を月に2回設定・実施する。</li> <li>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を80%以上にする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">89.5%</span></li> </ul>	
<b>学校の年度目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○令和4年度の児童アンケートにおける「パソコンやタブレットを使った学習は楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">87%</span></li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
<b>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</b> 全学年において、プログラミング教育に取り組む。	
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○プログラミング教育の年間カリキュラムに基づき、Pepper等を活用したプログラミング教育に全学年で取り組む。</li> <li>○令和4年度の児童アンケートにおいて、「プログラミング学習は楽しい」と肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">86%(86%)</span></li> </ul>	B
<b>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</b> 全学年において、ICTを活用した学習に取り組む。	
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○どの学年でも、デジタル教科書や学習動画などのICTを活用した学習に取り組む。</li> <li>○小学校学力経年調査において、「デジタルドリルを使った学習は楽しいですか」と肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">59.6%</span></li> </ul>	C
<b>取組内容③【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</b> 教職員が心身ともに健康に働くことができる職場環境づくりに取り組む	B

### 指標

- 校務支援システムを活用し、教職員間の情報共有を行うことで、校務に費やすことのできる時間を創出する。
- 学期に1回産業医先生の指導のもと、安全衛生委員会を開催し、教職員の健康を管理する。

### 年度目標の達成状況や取組の結果と分析

①②学年によって、実施状況に差がある。

①②一人一台端末を計画的に活用することにより、プログラミング学習や調べ学習等で、児童がPCを学習に活用できるようになった。

②「デジタルドリル」の使用率が低いが、タイピングソフトや他のソフトを使用している学年もある。

③リーバーの運用により、朝の業務が短縮され、その分子どもに向き合う時間に費やすことができた。

③校務支援システムの活用や「ゆとりの日」の設定により、教職員の効率的な働き方に対する意識の向上が進んだ。

### 改善点

①②ペッパー等のプログラミング研修や、ICT機器活用の研修が必要である。

①②Scratch等のプログラミングソフトに比べ、Pepperの使用のハードルが高く、効果的な使用が難しかった。デジタルドリルの活用については、学年によって差がある。校内研修を含めて、効果的な活用方法を探っていく。

③システムトラブルが多く、その都度業務が止まってしまう。